学校だより

# いなみっ子

令和６年７月２２日
南砺市立井波小学校
７月号　　第３５８号
井波小学校HPアドレス
https://inami-e.nanto.ed.jp/

題字　３年　前川　紹巴
（題字は昨年県書き初め大会出場児童）

## 教育的ニーズに合わせた取組

校長　中町　寿子

先月号に引き続き、子供の「教育的ニーズ」を踏まえ、一人一人の持ち味に寄り添った支援について、学校では実際どのような取組をしているのか紹介します。

子供の実態に応じて支援の方向性を検討したとしても、なかなか正解は見つかりません。一人一人の持ち味や状況が違うからです。そのため、①いくつかの方法を試しながら取り組む、②それぞれの方法について評価する、③別の方法を考える、または継続するといった流れで相談しながら進めます。

例えば、下表の④の状況に対して、最初は保護者の方と相談して、目当てカードを作成し学校と家庭と両方で称揚したり、席に戻る時間を子供自身に決めさせたりするという方法を考えたとします。しかし、離席の回数が減らなかったり、下表の①や③の様子も見られたりして効果が見えてこないと感じた場合、次の策として、該当の子供の困り感を専門的な機関でみてもらう方法をとります。専門的な機関では、検査を通して、子供の得意なところや苦手なところを整理して説明してくれるため、それが、具体的な支援に役立つ情報となります。そして、それを基に支援の方向性を再検討します。その際、学びの場の検討も行います。通常の学級や週１回程度の通級指導教室、少人数で学習できる特別支援学級等、どのように学習することが該当の子供の持ち味を生かせるかという視点で考えていきます。先ほどの例で専門的な機関から「落ち着ける環境が必要」との情報があれば、少人数で学習できる特別支援学級という選択も考えていきます。

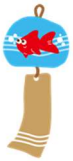
この他にも、学校では、子供が教室に入りにくい時に過ごす部屋を用意したり、何ができるか子供や保護者と相談したりして、支援に関わるスタッフと打合せや共通理解しながら進めています。もちろん学校でできることに限りはあるのですが、今目の前の子供たちのためにできることを精一杯考えたいのです。そのためにも、保護者のみなさんと一緒によりよい子供の学びの場について話し合いながら進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

《例》　（井波小学校学校だより６月号より）

| | |
|---|---|
| 学習面 | ①個別に言われると聞き取れるが、集団では注意を向けて聞くことが難しい。<br>②文中の語句や行を抜かしたり繰り返し読んだりと、読んでいる場所が分からなくなる。 |
| 行動面 | ③気が散りやすい。<br>④授業中や座っているべきときに席を離れてしまう。 |
| 社会性 | ⑤友達と仲良くしたいという気持ちはあるが、友達との関わり方が分からず、関係がうまく築けない。<br>⑥見通しのもてない突然の予定変更や変化を嫌がる。 |
| その他 | ⑦ささいなことですぐにかんしゃくをおこす。<br>⑧ちょっと注意されたことをひどく怒られたように被害的に捉える。 |

＜８月の主な予定＞
２５日（日）親子清掃
２８日（水）２学期始業式
　　給食開始
３０日（金）校内芸術鑑賞会

＜９月の主な予定＞
２日（月）集団登校
１２日（木）市芸術鑑賞会（４年）
１３日（金）避難訓練(地震)
　　ベルマーク回収日
１７日（火）研修会　(給食後下校)



# 社会で生きていく力を

特別支援学級主任　曲師　ひとみ

特別支援学級には、通常の学級にはない「自立活動」の時間が設定されています。「自立活動」では、一人一人の特性に応じて学習上又は生活上の困難を改善・克服する活動を行っています。内容には、「心理的な安定」「身体の動き」「人間関係の形成」等６区分あります。

今学期行った「いろいろな動きにチャレンジ」では、様々な運動の場を設定し、体を思いどおりに動かすことに取り組みました。また、「育てた野菜を調理しよう」の活動では、野菜の世話や調理等、手順がいくつもある活動を設定し、ゴールまでの見通しをもてるように支援したことで、根気強く活動に取り組みました。学年が違う子供たちが一緒に活動することで、助け合ったり励まし合ったりすることや、相手のことを考えた言葉かけをする姿も見られました。活動の前には、「大縄跳びに入れるようになる」「励ましの言葉を言う」「全部の運動を１０回やる」等、自分で目当てを決めたことで、できた喜びや楽しかった思いを味わい、「次もやってみよう」と意欲をもつことができるようにしました。

特別支援学級で学ぶ子供は、いくつかの教科を通常の学級で学習しています。教科の内容だけでなく、大勢の子供たちの中で学習することで、集団でのふるまい方や関わり方を学び、一斉の指示を聞きとったり友達の行動を見て同じように活動したりすることもできるようにしています。

自立活動での学習活動や一人一人への支援を工夫することによって、社会の一員として生きていくことができるように、自己理解や他者とのかかわり方等を身に付けられるようにしたいと思います。

## 元気いっぱい井波っ子

### ６年図画工作科「絵のお話でプレゼント」

６学年主任　上野　琢麿

「１年生ともっと仲よくなりたい！」という思いをもった６年生は、１年生に紙芝居をプレゼントする学習をしました。紙芝居の絵や内容は全て６年生の手作りです。「このお話にした方が１年生は喜ぶよ」「この色を変えた方が１年生にとって分かりやすいと思う」など、友達と相談しながら１年生のために一生懸命に紙芝居を作りました。紙芝居を聞いている１年生は笑顔いっぱいでした。

＜１年生に読み聞かせる６年生＞

### ２年「まちたんけん」

２学年主任　棚田　賢也

先日、生活科の学習で八日町通り周辺を探検しました。松屋、よしむら瑞泉寺前店、常永寺（だるま寺）、黒髪庵のうち子供が選んだ１か所と瑞泉寺に行ってきました。それぞれの場所では、子供が自分たちで挨拶したり質問したりしました。また、瑞泉寺ではガイドから説明を聞いて、本堂に入りました。探検先では、子供の質問に丁寧に答えてくださり、ありがとうございました。

＜瑞泉寺にて＞